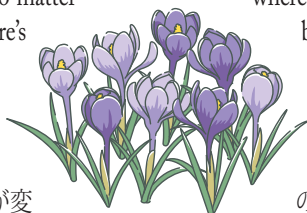




Nature's Changes Hannah Hayden

I recently realized how differently I think about the passage of time since coming to Japan. In the US, I typically thought about time in relation to holidays. There are so many celebrations in a year, so I just measured time by how long until the next holiday. From New Years to Martin Luther King Jr. day to Valentine's Day to St. Patrick's Day...and so on. I just checked off each holiday in my mind as it passed. But in Japan, and especially Hokkaido, I've started paying closer attention to nature. I spend more time outdoors here, observing and noticing the changes. After almost 4 years here, these changes are now what I use to mark the passing of time. Every year I look forward to early April, watching for the crocuses to pop up. They are always the first flowers I notice after the long winter, so I feel so much joy when they appear. I watch for them to sprout outside my apartment, and I start making guesses. Will it be a white or purple one to blossom first? (Two years ago, purple was first, but last year it was white. Which will win this year?) I now anticipate each change throughout the seasons. I watch for the daffodils and tulips, the cherry blossoms, shibazakura, and sunflowers. I watch the changing rice fields and wait for them to be flooded with water. I love watching the stalks grow and become incredibly green before turning into beautiful fields of gold. I wait for each kind of autumn leaves in turn, especially the stunning maples and finally the gorgeous bright yellow ginkgo trees. I hope that no matter where I go in the future, I will always pay close attention to nature's beautiful changes throughout the year.



【ちょっと豆知識】宮地晶子

※「(クロッカスが) 出てくる」
原文にはpop upという言葉が使われていました。「ひょいと出る」「飛び出す」という意味。訳には活かせませんでした。クロッカスの雰囲気がよく出ています。そう言えば、最近レトロで流行っているトースターも「ポップアップ・トースター」と言います。ポップだけだと、「はじける」ポップコーンがそうですね。

四季の移ろい ハナ・ヘイデン

日本に来てから、時間の流れの受け止め方が変わったことに最近気がつきました。アメリカでは普通は、祝日との兼ね合いで考えていました。年にたくさん祝日があるので、次の祭日までの日数で時間を測っていたのです。新年からキング牧師記念日、バレンタインデーから聖パトリックの祝日...といった感じ。1つ過ぎるたびに頭の中でその祝日にチェックを入れていました。でも日本、特に北海道では自然により目を向けるようになりました。こちらでは屋外で過ごすことが増え、自然を観察しその変化に気づくようになりました。ほぼ4年が経ち、今では自然の変化で時の流れを知ります。毎年4月初旬にクロッカスが出てくるのを楽しみにしています。長い冬のあとでいつも最初に気がつく花な

ので、芽が出ると強い喜びを感じます。アパートの外で芽吹くのを待って、今年は白と紫のどちらが先かと予測し始めます(2年前は紫が先、去年は白でした。今年はどっちが勝つか)。今では四季を通したそれぞれの変化を楽しみにしています。水仙にチューリップ、桜に芝桜にひまわり。田んぼの変化を見て、水が張られるのを待ちます。稲が育って美しい黄金色になる前に信じられないほど緑になるのを見るのが大好きです。そして次に楽しみなのが、それぞれの紅葉、特に見事な楓、そして最後のイチョウの華やかで明るい黄色。将来、どこへ行っても、1年を通して自然の美しい変化に、いつも注意を払っていただけたいなと願っています。(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第188回

Please call me they.

「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2」は、イギリス人と結婚したブレイディみかこ氏のエッセイ。この「イエローでホワイトなぼく」とは、彼女の13歳の息子さんのことなのですが、彼の中学校生活を通して見えるイギリス社会が、非常に興味深いです。中にこんな話があります。例えば学校にはLGBT+を象徴するレインボーカラーを身に付けた先生たちがいて、そういう先生には「自分の性」について相談できることになっている。進んで

いますよね。LGBT+の人は1クラスに2~3人の割合でいると言われていました。かねがね悩んでいる子がいるはずだと心を痛めていますから、安心して話ができる大人がいる、というのは非常に心強いことだと思います。また、授業の最初に自分をどう呼ばれたいかを尋ねてくれる先生もいるそうです。どうということかと言うと、自分のことをhe(彼)でもshe(彼女)でもなくtheyを使って呼ばれたい、という人が一定数いるからです。これは自分の性を男女で区別したくないノンバイナリーという人たちで、歌手の宇多田ヒカルさんもその1人です。「彼ら、彼女ら」と複数の人を表す単語だったtheyですが、1人の人を表すtheyは全く新しい。アメリカではウェブスター辞典が2019年に「今年の言葉」に選んだくらいです。それにしても、中学生が最初に英語でつまづく最大の原因は、代名詞のシーハーハーとヒーヒズヒムだと思いましたが、なんですかね。こうなったらいっそ、全部ゼイゼアゼムにして、動詞に三単現のSとか付けるのやめちゃってくれたら、みんな英語もっと得意になるんですけどね。